



# ハタラクヒト \*ペディア 6

---

<毛受芳高 氏>

---

田中永子

---

## はじめに

---

はじめまして、田中コーチングの田中永子と申します。

私はNLPやコーチング、ソースなどを学び、それらのノウハウや考え方を活かしたコーチングを提供しております。

この度、新しい企画といたしまして、おもに愛知県名古屋市、刈谷市を中心にお仕事をしていらっしゃる経営者の方々や企業や組織の幹部の方々へのインタビュー企画をスタートいたしました。

この企画を始めようと思った趣旨は、将来の先行きが見えづらい現代社会において、第一線でバリバリと働いていらっしゃる現役の経営者の方々、企業幹部の方々が、今何を考えているかということに興味を持ったこと。そして、その考え方に基づいてどんなアクションを起こしていらっしゃるのだろうと思ったことにあります。

また、こうした第一線でご活躍の方々のさまざまな角度からのメッセージを他の多くの実業家の方々と共有したいと思ったことも大きなモチベーションとなっています。

その他、高校生や大学生の方、これから社会に入っていこうとする方にも読みやすいように心配りしておりますので、ぜひご愛読をいただけましたら幸いです。

個人的な考えではありますが、愛知県はモノづくりの聖地であると考えております。このモノづくりの聖地である愛知県にあって、日夜、しのぎを削っていらっしゃる多くの企業人、組織人の生の声をお届けしたいと思っております。

よって、このサイトの大きな特徴として、インタビュー形式のログをそのまま読者のみなさまにお届けするというスタイルを取っています。インタビューさせていただく私と、インタビューを受けてくださる方の真剣勝負。行間の中に潜む間も大切なメッセージだと考えております。

第6回 ご登場いただくのは、  
一般社団法人アスバシ教育基金の代表理事でいらっしゃる毛受芳高さんです。

毛受さんは、1999年から愛知私学の運動に参画するとともに、  
NPO法人アスクネットを立ち上げられ、発展させてこられた方です。

2008年にNPOはスタッフに引き継がれ、  
若者たちの心に火を点ける体験をつくるための教育投資を、  
市民・企業に呼びかける新たな団体を立ち上げられたばかり。

今日は、毛受さんの考えと教育に至った経緯などについてお話を伺ってみました。

毛受芳高さん（一般社団法人アスバシ教育基金代表理事）



市民、企業の教育投資（寄付）を集め、高校生的心里に火をつけ、  
主体性が起動するインターンシップ等の教育プログラムを助成する団体。  
「あなたの投資で、若者達は起動する」 がスローガン。

趣味は、映画鑑賞と音楽。

好きな本は「はてしない物語」。

好きな音楽はビートルズ。

連絡先： 一般社団法人アスバシ教育基金

E-mail: [menjo@asubashi.jp](mailto:menjo@asubashi.jp)

URL: <http://www.asubashi.jp/>

## ◆価値観をチョイスする

田中永子（以下、田中）： 先日は葬儀屋さんにインタビューしたのですが。 お仕事ってところから入っていくんだけど、結局その人の死生観が出てきたりとかして、思いもよらない感じになるのがおもしろいんです。

毛受芳高さん（以下敬称略、毛受）： なるほどね。

田中： その人の考えが透ける感じのインタビュー記事を提供したいなって思って。 だから毛受さんに出ていただくしかないと。

毛受： なるほど。 でも、私の仕事ってわかりにくいんだよね。 結局、わかるものを求めちゃう。

田中： わかりやすいものを？

毛受： そう。 いわゆる 「わかりやすい」 っていうのは、自分の頭の中にすでに原型があって、それに重なるとわかるというもの。 まったく新しいものはわからない。

何か新しいものがわかるとは、ほんとに新しいものではなくて、今まで 「わかってる原型」 に、ちょっと 「トッピング」されたぐらいのものじゃないと、わからない。

田中： 原型を知っているもの？

毛受： そう、原型を知っていて、それが少し変わった感でものごとを理解する。 でも、原型そのものがわからないものは 「わからない」 「わかりにくい」 って言われる。 いちごのショートケーキを知っている人に、ブルーベリーのケーキは原型の延長でわかるが、ケーキそのものをまったく見たことがない人にはわからない。

田中： そうですよね。 えっと、毛受さんは、人的なネットワークを凄く持っていますよね。 蜘蛛の巣状みたいな。

毛受： まあ、そうだね。 それは長年かかって積み上げたもの。 平身低頭、いろんな人とつきあう。 偉そうにしているのは、ネットワークは拡がらない。

田中： それはこれまでの失敗経験から学んだことなのですか？

毛受： そんな感じだねえ（笑）。 そもそもNPOは 「社会を変える」 だの 「教育を変える」 だの、偉そうなことをのたまうわけです。 それはある意味、既存の社会で働いている人を批判しているように聞こえるわけ。 その人たちに鉄砲を撃っているようにとられる場合もあるわけです。

そのとき、偉そうにしてたら、絶対に相手に撃たれるに決まっている。 弾が飛んで来るんです。 戦場で立ち上がって鉄砲を撃つ奴がいますか？ ある意味、NPOの問題解決とは、社会に対して、攻めなんだから、匍匐前進が基本なんです（笑）。

田中： 毛受さんて、清濁併せのむってイメージがあって、それが今の周りの人達のネットワークとか、そういうものに繋がってる感じがします。

毛受： うん、それはやっぱり、私が今、足場を置いている愛知私学で学んだことだと思う。 私も、深い哲学があるところに惚れてね。 愛知私学からスタートしてる。

それはね、年を重ねれば重ねるほど、「なるほど」 ってことがたくさんある。 「清濁併せのむ」 ってやつもさ、やっぱり仏教でいう 「曼荼羅」 なんですよ。 すべてが、清いも汚いもさ、その人の価値観によって、清いも汚いが決まるだけの話で。 すべてには意味がある。

田中： おー。

毛受： 汚いっていうのは、ぐにゃぐにゃいっぱいいろんなものが詰まっているわけで、バクテリアが繁殖するというのは、バクテリアにとっては、リッチな環境なわけでしょ。

田中： 栄養満点だもんね。

毛受： そうそうそう。 生きてるんだから。 だからバクテリア界からいえば、「汚い場所」 は平和が訪れた繁栄の地、みたいになる。

田中： あははは。

毛受： きれいにしすぎることは、バクテリアの居場所を破壊したといえる。

田中： うん。 魚も住めないみたいな。

毛受： そうそう。 発酵と腐敗ってあるじゃない。 発酵と腐敗ってのは同じ現象なんですよ、結局。 菌が作る酵素によって分解してね、造るわけでしょ。 納豆とかお酒とか。

田中： そうだよな。

毛受： 人間の価値観にとって、人間にとっていいものを発酵といい、都合の悪いものを腐敗と言ってるだけ。

田中： 言い換えられてるだけで。

毛受： そうそう。 所詮、菌にとっては、どちらも 「ボクたち、一生懸命分解してます」 みたいな（笑）。 いっしょ。

田中： あははは。

毛受： だからあんまり、一面だけの価値観だけで 「あーだこーだ」 言っても見誤る。でも、すべての価値観でもって判断してはいけない、ということではなくて。 それは、価値観を持たないと何も行動できないから。

でも、ちゃんと、ベースとなる価値観は持つけれども、あくまでも、「私はこの価値観をチョイスして、これをやる」 っていう感じで。 いつでもその価値観は捨てられる態勢におく。 あくまでもチョイス。

でも、私の考えの根底にあるのは、「ケセラセラ」 というか、「なんでもいい」、「なるようになる」 と。 自分のベースでいくと、そうになってしまう（笑）。

田中： ベースになる価値観ってどんなですか？

毛受： ベースの価値観は…… ニヒリズムですよ。

田中： ニヒリズムう??

毛受： 人間が頑張っって何か行為をして、「おれはいいことやってる」 って思っっていても、他の人にとって 「なんのいいことかわからん」 と思う人もいたりして、その人から見たら、その行為は単なる 「暇つぶし」 にしか見えないわけ。

田中： 暇つぶしですか？

毛受： そう。 無意味に見える。 「いいも悪いも絶対的に言えない」 とすれば、何を頼り

にして生きたらよいか、わかんなくなるよね。でも、人間はなににかけてないと退屈になっちゃう。つまんなくなる。生きていくのが面倒くさくなっちゃう。腹も減るし。苦になってしまう。

だから、あえて自分なりの価値を作り、その価値のなかで「人生、生きててよかった」って、楽しくなるみたいなこと、物語を自分なりに描こうとするわけ。

田中： うん。

..... つづく ^^

◆集まってきた人たちが紡がれていく「物語」

毛受： 所詮それだけ。「あなたは生きてる。生きてるから意味や価値を求めるけど、それはただ、あなたの人生での話……」なんだわ。どこまで行ってもね。

「あなたが素晴らしいことしたとか、それはそれで、あなたの世界観、物語のなかでの素晴らしいことだ」ってことでしか言えないということを確認すること。全然違う価値観の人もいてね。価値観は多様でフラット。上等な人生を求めることは、常にその価値が裏返され、不幸せを生み出す可能性の裏返し。だから、明るいニヒリズム。所詮、人生、死ぬまでの暇つぶし、と思っておくほうが堅いのさ。

田中： さっきの清濁併せのむではないけど、毛受さんのステートっていうか、凄く広い気がしますね。いろんな人が入ってきて、そのまんま、そこにいる感じがする。

毛受： あー。

田中： だから、どんどん広がってる気がします。その辺の秘訣っていうのかな、なにか心がけていることってありますか？

毛受： こっちがさ、いいとか悪いとか、役に立つとか立たないとか、そういう価値観がないんだろうね。そもそもね。

田中： ないから、来るってこと？

毛受： そう。たぶん相手を値踏みしようとする深層心理がない。人は深層心理に反応するからさ。下に見たりしていると、言葉では出さなくても、相手に伝わっちゃう。

田中： うん、あるね。

毛受： あるでしょ。さっき言ったとおり、あまり固定的な価値観を持たないで、その立場から見たら、それぞれ一生懸命生きとるわけだから、「それでいいが」という感じ（笑）。

田中： あははは。

毛受： それはO型的なところだから。

田中： O型なんだ。



毛受： うん。 だから、あんまり選り好みしない。 来るものは拒まず。 なんかとなんかがうまく繋がれば、マイナスなものも、ちょうどいいものと組み合わせた時に、いい面もあるわけですよ。 「いいものはさ、結果的に環境から生まれてくる」 っていう価値観を持ってる。

田中： 敢えて、そこでなにかを作り出そうとは思ってない？

毛受： 作り出そうとは思ってるよ。 私は私なりに、みんなと同じように、ひとつの物語を動かそうとして、声かけて、繋がっていただけの話だから。

でも、私がすべてのストーリーで、みんな来てくださってことじゃないわけ。 私は勝手に自分のストーリーで動いてるだけなんで。 これは、これ。 「みなさんは、みなさんのストーリーで。 たくさんのストーリーがあっていいねえ。 楽しいじゃないですか」 って感じなの。

田中： うん。

毛受： 「ミヒヤエル・エンデ」 の 「はてしない物語」。 そういう価値観。 主人公がいて、いろんな登場人物がいるけど、「たまたま主人公のお話を書いているけど、その中に出てきたいろんな人が、それぞれの物語で生きています」 っていうことを書いているわけ。 あの価値観、素晴らしい。 そういう感覚が常にある気がするね。

田中： そうだね。

毛受： だから、それを愛でるっていうか、「みんな頑張っとるな、一生懸命やれよ」 っていう価値観はあるから、その認められた感を持つと、なんとなく近寄れたりするからさ。

田中： じゃあ、声をかける人とか、そういったことを意図してない感じなのかな？

毛受： 意図はしてるよ。 その物語と接点がありそうとか、その人の物語を、「この頁に差し込むとけっこうおもしろそうだな、相手の物語が計算外の展開になりそうだな」 とか。 あるいは、「ちょっと合わないかな？」 とか。 「もしかしたら、この頁おもしろいんじゃない？」 ってのを差し込んでみる。

田中： 挿絵的に。

毛受： そう。 で、ピタって合うと、「いいねえ」 って。 そうすると、物語が膨らむじゃない？

田中： だけど、本筋は変わらないんですよ。

毛受： そう。 ストーリーはストーリー。 で、その展開感がおもしろくて、ダイナミックに変わって行くとか、そういう感覚。

田中： いろいろに色を加えて行く感じだよ。

毛受： そう。 そうなんすよ。 だから、それなりに意識はしてる。 相手のストーリー感がまだわかってない時は、とにかく声だけはかけとくとか。 そういうのもある。

田中： 元になる物語って、毛受さんのなかで、どんな感じですか？

毛受： 元になる物語か。 やっぱり自分自身が、教育ってものを決めて、「なんとかするぞ」 っていうところで始めて行った。「教育やろう」 っていうところまでの物語と、始めたっていう物語と。 大きなチャプターからいくとね。 それがベースになってる。

田中： うん。

毛受： まあ、無味乾燥な社会で、ただ単に死んでくという価値観にも関わらず（笑）、自分としてストーリーを設定して、この無味乾燥な砂漠がね、少しオアシスになってく。

でも、基本的に価値観は、「まあ、そんなことめんどくせーし、まあいいじゃん。適当でいいよ、適当で」って言うてる。

田中： あははは。

毛受： それがベース（笑）。 限りなくそんな感じ。

田中： それがあるんだけど、でも、やってるんだよ。

．．．．． つづく ^^

◆スタート地点が一種マイナスに近いから、なにをしてもプラスになる

毛受： その価値観でいて、すんなり死んで行けばいいんですけどね、死ねないでしょ（笑）。

田中： うん。 だって、まだ41でしょ（笑）。

毛受： うん。 死ねねえよ。 それを痛切に感じたのが大学2年の時で。

田中： 大学2年？

毛受： そう、「俺なんて、なんの役にも立たんかもしれんし、生きる価値はない」とはっきり思った。 でも、だからといって、死ぬためのエネルギーもない。 生きる価値がないって思った瞬間に、ぴって心臓が止まってくればいいんだけど、止まんわけ。 心臓を止めるには相当なエネルギーがいるわけ。 それだけでもめんどくせえ（笑）。

田中： あははは。

毛受： だから、私は、「ただ生きるのみなんだよな」という自分なりのベースからスタートしてる。「もういや、めんどくせー」とって、究極にだらだらして、ベトベトって。

田中： スライム的に（笑）。

毛受： そういうイメージないでしょ？

田中： うん。 逆な感じがする。

毛受： で、そこをベースに見てるから、「それでもちょっと役に立つとるが、おまえ」とって。 スライムがさ、ちょっと頑張ってる形とか作ってる（笑）。

田中： 形を整えてるのが凄い（笑）。 整えていられるだけで凄いよね。

毛受： そうそうそう（笑）。

田中： スタート地点が一種マイナスに近いから、なにをしてもプラスになる（笑）。

毛受： そうそう（笑）。 そういう感じよ。 だから、とりあえずここまでやれてきたことは

上出来、上出来。ただ物語は、チャプターはまだまだ続く。シリーズで。

田中： 完成すると、どれくらいの物語に？

毛受： それはやっぱり、そういう意味ではガチンコだからさ。この章だけで終わっちゃうこともあるかもしれんし。うまくって、新たな旅立ちがあるかもしれないし。でもそれはどっちでもいいかな。死ぬまでの暇つぶしだし。要は自分なりに。「どーでもいいやー」って。「べとーとしたスライムに戻らなけりゃいいや」って（笑）。

田中： スライムの時期って、どんな感じだったんですか？

毛受： もうね、引きこもりみたいだった。ゲームばっかやって、朝方に寝はじめて12時とかに起きて、学校行って、そのままだらだらして。

田中： あははは。

毛受： で、「サークルの時間だ」って行くときもあるけど、「めんどくせー」ってなるとそのままだったり（笑）。そういう生活をね、一か月、二か月やったらね。

田中： そっか。大学2年の時？

毛受： そう。やることないし、やりたいこともないし。時間さえ過ぎればいい。ゲームやったって達成感があるわけじゃない。「あー、またくだらない時間をつぶしてしまった」みたいな。

田中： なんか転機はあったんですか？

毛受： まあ、だから、そこから抜け出ることができたのは、サークルであったり。

田中： なんのサークル？

毛受： 英語のサークルやった。ESS。2年生の時、副部長だった。

田中： 笑

毛受： 副部長も、「とりあえず、やっつけー」って感じだった。他の副部長は優秀だったからさ、英語もしゃべれて、成績もよくて。そんななか、次の部長を決めんといかんって話

になって。自分は、「あー、どうぞ〜」って感じだったけど、他のふたりとも個性が強すぎて、どちらがなってもおさまらんわけよ。「じゃ、めんちゃんやってよ」って話になって。

田中： 笑

毛受： で、「あ、俺っスか？ 英語、あんまうまくないっスよ」って。「でも、まとまるから」って言われ、「まあ、しょうがないっスね」ってなった。

自分なりに役割を持った時に、「なんか考えないかん。今までのままでいいのだろうか？」って考えて、E S S改革とか打ち出して、それを先輩に見せたら、「よく考えられたプランだ」なんて褒められて、上がりながらね（笑）。少しずつさ。

で、3年の時に自分なりに目標とか持ち始めた時から、あんなにスライムで、「なんでもいいや」とかって言っとった子がさ、変わっていった。

田中： うん（笑）。

毛受： あ、あともう一個あった。2年の時に、「このままじゃいかん」って。それまで自宅生だったけど、その時に、月一万円の下宿見つけてね。それなら自分のバイト代で賄えるじゃん。

田中： たしかに。

毛受： だから、「自分でやるよ」っていう感じ。

田中： 環境を変えた、環境が変わったって感じかな。

毛受： そうそう。環境を変えた。なんか、そこはわかるよね。人間、なにかに夢中になって取り組めるってしあわせ。それはなんでもいい。

周りの人は価値があるかどうか、いろいろ言うかもしれんけど。「あなたが価値を持つてることが素晴らしい」ってこと。自分が思えたものなら、よし。他の人がみたら全然つまんないことかもしれないけど、「全ての人が素晴らしい」ってものって、ありえんわけだから。

田中： うん。

毛受： だから 「所詮、暇つぶしなんだよ」 っていうくらいの感覚でやっとならば、間違いはないってというのが、その時からの流れ。 そうそう、そんな感じ。 そこは自分のいろんな価値観のベース。 パラダイム。

田中： おもしろいよね。 熱いのと冷たいのが一緒になってて、混じってないよね。

毛受： そうかな？

田中： 混じると平熱になるんだけど、混じってないまんまが、こう、一緒にいる感じだよ。

毛受： そうそう。 だからね、よく言われるのが、ぱっと見ると熱くて。 でも、よくつきあってくと、実は下の方に、すごいつめた一い人間がいるんですよ（笑）。

田中： そうそう（笑）。

毛受： それに取り込まれる時があるんですよ。 その時がけっこう。 すごく冷静に観る感じ。

田中： そうだね。 体温奪われるような、冷たさがある感じ。

毛受： だけどねえ、そいつとの対話をいつもしてるよ。

田中： そうだね。 ちゃんと持ててる感じもするから。

毛受： そうそう。 それは対話できてる。 逆に虚無になっちゃうから、そいつに全部取り込まれちゃうと。

田中： そうだね。

毛受： 虚無だよ。 それは真実かもしれないけど、果てしなく寂寥って感じ。

田中： 無常感というか。

毛受： そうそうそう。

田中： それに繋がる感じ、するよね。

毛受： だから寂寥感。 そこには果てしない孤独と、悲しいという感覚ですら、赦されない。

田中： ただ、こう、いるだけ。

毛受： そう。 なってもしようがない。 だから原点は、「光あれ」 ですよ。 それは自分で価値を作って、自分が光でしょうと。 それが命だし。 好きだ、やりたい、やだ、悲しい気持ち…… そんなものがあって、価値を作り、モノトーンな白黒画像に色をつけてく。

田中： それがあって、そこからだんだん自分で色づけして、だから 「色づけすることもできるんだ」 っていうのも、わかってるんだよね。

毛受： そうそう。

田中： 私は、けっこうそこら辺好きだな。 ちゃんと観えてるから。 つらい無常観っていの、自分も高校の時経験してるからわかる、そこら辺はね。 だから、目を背けるために明るい方を向いて頑張ってる人よりも、毛受さんのそういう暗い部分を持ちつつ（笑）、行ってる感じの方がしっくりくる。

毛受： まあ、頑張ってるのは光の戦士だね。 それはそれで重要なんですよ。

田中： まあ、わかりやすいしね。

..... つづく ^^

◆「先生は絶対ヤダ！」だったはずなのに、「教育」に進んじゃった経緯

毛受： 光の戦士は、闇の戦士たちを蠢かせるから。 まあ、そこはおもしろいところですよ。楽しみなところ。

田中： そこで、どうして教育だったのか、お伺いしたいです。

毛受： まあ、だから教育は、一番自分から縁遠いところだったし、学校なんて最高に嫌だったから。

田中： 嫌だったから、そこだったの？

毛受： そう……いや、嫌だったから、そこじゃなくて、高校の時にキャリアデザインというか、自分の将来どうしようかなと考えた時に、唯一はっきりしてたキャリアデザインはなにかという、「先生以外」 （笑）。

田中： あはははは。

毛受： それしか思い浮かばなかった。 先生は絶対ヤダ。

田中： それだけは明確だった？

毛受： 明確だった。 そんな権力をかさにきて、なんか偉そうにやって。

田中： あははは。

毛受： なんてバカげてるんだと。そんなところには金輪際、関わりたくないっていう感覚だった。

田中： なにそれ。 おもしろいー（笑）。

毛受： そう。 そういうことだった。 だから講演でも言うんだけど、はっきりと覚えていることは、先生以外。 でも、なにをやりたいかわからないから、なんにでもなれるように、どんなところにも使われているコンピューターをやっとけば、なんか役に立つだろうと。 そういう理屈でつぶしのきく大学の学科として選んだ。

だから、大学はコンピューターの情報科学。 データベースとかOSとかさ、ああいう専門分野。



コンピューターに関する科学をやった。だから結果的には正しかったけど。コンピューターやったから、教育の世界でも価値を生み出した。

田中： うん。

毛受： コンピューター苦手な人ばかりだから。私はコンピューターの力を武器に、教育の世界に入って行ったみたい。結果的には、教育にすらコンピューターの専門で行けたって感じだから、そういう意味では、その時の判断は正しかったけど。意外でしょ？

田中： 意外ですね。

毛受： なんで嫌だったかっていうと、やっぱり権力っていうのが頭っからあるじゃないですか。「この人の教え方って全然わかんない」って先生もいるわけ。そんなん「聞け」って言われても、「聞くか聞かないかは、俺が決める。それよか、河合塾のテキストでやった方が早いんだよ」って。

田中： 笑

毛受： で、大学行ってからディベートやったわけ。

田中： うん。

毛受： ディベートを学ぶだけでも、ものすごくいろんなことがわかるわけ、見方とか。クリティカルシンキングなどを身につければ頭がシャープになってくる。で、シャープになった目で現代文やりはじめたら、私にとって鬼門だった現代文ができるようになってしまった。

田中： 笑

毛受： センター試験で一問間違えるとき、配点9点とかじゃん。いくら理科とかで完璧にやっても98点とかで、国語でちょっと間違えると、どかーんって。それでけっこう痛い目みたことがあってさ。実際、自分のセンターの時も、迷ったあげく変えた方が間違った。それで9点マイナス（笑）。

田中： あははは。

毛受： 現代文がちょっと苦手だった意識があったけど、ディベートやってから現代文は、けっこうロジックがわかるから、論点がわかるし、「この問題文は何を意図しているか」とか。

ちゃんとロジックがわかると論拠をもって反論してけばいいわけで、けっこうわかるようになってしまったんですよ。「なんでこんなこと、はやく教えてくれなかったのか」とか思ったね。

田中： うん。

毛受： もうひとつは、やっぱり英語。英語学習についても、やっぱり英語大嫌いだったわけ。でも、ディベートをやりたくて、英語をもう一回はじめたんだけどさ。やっぱり、使う英語をやりはじめたら、凄く伸びたんだわ。

国際会議とか出たりすると、悔しいからさ、「英語勉強しよう」となるじゃない。それで、それなりに英語しゃべれるようになるわけ。だから、自己学習法とか、英語は学習じゃなくてトレーニングだとか、教え方を変えればみんなしゃべれるようになる。なんで英語教育は変わらないのかって思った。

田中： 国際会議に出たことがきっかけ？

毛受： そうそうそう。そのなかに、教育分科会ってあるわけさ、国際会議に出ると。エコノミクス、エデュケーション、ポリティクス、カルチャーとかさ。その中のエデュケーションの分科会で、いろいろ議論するわけですよ、私が。したり顔で。

田中： 笑

毛受： 教育を語ってくうちに、だんだん深まってくわけですよ。問題意識がどんどん深まる。「日本の教育、おかしいよね」と。

田中： うんうん。

毛受： そんな中、世界青年の船って国際交流プログラムに参加するわけね。そこで、海外の同じ20代の若者たちとディスカッションすると、「日本人が凄く未熟」と言われるわけですよ。「自分のアイデンティティもないし、なにをしたいかの目標もないし。子どもっぽい」と海外の青年から言われるわけ。

ふざけんなって感じですよ。悔しいって思うわけ。それで、「このままじゃ日本、ヤバイ」と思って始めようと思った。教育について解決策を偉そうに語っていたのに、教育に何もしなかったら、敵前逃亡じゃないかって。

田中： 自分で自分の首絞めてる（笑）。

毛受： そう。

田中： 自分の方向を……退路を断っちゃったみたいなの（笑）。

毛受： そう（笑）。 「そこまで道が見えてんだろ？ そのプランを実験したのか？」、「他にやれない理由はあるのか、君は？」 って。

田中： 笑

毛受： さっきのニヒリズムのね、皮肉っぽい自分はね、チャレンジされるわけですよ。 「それはそれでいいんじゃないの。敵前逃亡なら敵前逃亡もいいよね」 って。

田中： あははは。

..... つづく ^^

◆夕日の中での決意と、これから

毛受： そうなると、どうかなあって思ってさ。 まあ、「やってみっか！」 となって。 それでも決めるまでに、2年かかったかな。 なかなか簡単に決められないじゃん。 それでもうちちょっと考えようって、休学したの、大学を。 大学院で一年半くらい休学したのかな。 その間自分で考えたりして。

田中： うん。

毛受： もう一回考えて、船に乗ったんですよ。 縁あって。 その二回目の船に乗った時に、「帰る時、シンガポールから日本の三日間の間に決めよう」 って、自分で設定して。

夕日がばーって、赤い海があって、どうするかなあって。 でも、これで着くまでには決めなきゃって考えとったら、「まあ、なるようにしか、ならんよね。やるだけやってみるか」 って、きっちり決めた、そこが出発点。

田中： へえ。 夕日の船の中で。

毛受： そうそうそう。 シンガポールからの帰路で決めるって決めてたから、そこがスタートですよ。 まあ、そのときは愛知私学にも参加していて、「すぐに働かないか」 って言われてたんだけど、98年4月から、「大学院を卒業させてください。 終わったら必ず行きますから」 って、一年間、見習いとして参加させてもらいながら、大学院を修了した。

田中： どうです？ そこから今をご覧になって。

毛受： まあ、あっという間だったね。 30年かかると思ってたけど、もう半分経っちゃった。 だからあ、あと15年で物事が完遂できるかって考えると、けっこう時間無いなって思うわけ。 教育を変えようと思ったとき、いつ頃までにという期限を設定したんだけど、それが、「自分の子どもが中学生くらいになるまでに」 って言ってた！ もう来年には今の一番上の子が中学生（笑）。

田中： あははは。

毛受： だから、中学生でいる間にとか。 そうすると最低3年。 遅い方で考えると、一番下の子が中学生になるまでだと、あと5年プラス8か月。 全然時間ない。 そんな感じ（笑）。

田中： どういった形になればいいって、思ってるんですか？ 教育で、30年で成し遂げたい

ことって。

毛受： ちゃんと、人間の能力がスムーズに引き出せるような教育制度や、先生の関わり方とかいうものになっるといいなって。 例えば、英語にしても、あんだけやって 「しゃべれません」 でしょ？ ちょっとやり方を変えれば、もっとしゃべれるわけ。

田中： うん。

毛受： それは教え方だけの問題じゃないんだわ。 動機付けが大事。 もっと短期集中型でやるべきだ、とかいろいろあるわけ、内容とかも。

でも、むしろ、なんのためにやるのかが大事。 別に今のままでいいんだわ。 ただ、大学行ってから自分なりに目標を持って、やりたいことやっていけるような教育になるかどうか。 それが一番核となる部分でずっとやりつづけている。 『キャリア教育の推進』 も、今のよう  
に仰々しくやるのでなく、自然にやってるような。

田中： ああ、「キャリア教育です」 って、お題目を唱えなくて、自然に浸透しているやり方になればいいということですか？

毛受： そういうこと。 そういうことを目指してる。 だけど、キャリア教育って言葉もね、この前、中日新聞のサンデー版に大きく載っていたけど、かなり普及浸透はされてきたし、その普及浸透を担ったと自負はある。 だけど、まだ端緒についたばかりだし、やっても無意味な、『なんちゃってキャリア教育』 もいっぱい横行してるし。 そういうもの見てると、まだまだやることはいっぱいある。

田中： あと15年？

毛受： マックスでいうと15年で、もっと厳密に解釈すると、1年。

田中： 笑

毛受： 無理だあ（笑）。 諦めとる。

田中： おもしろかった。 これからの展望はどういったものがありますか？

毛受： 展望か……。 これまでは、今やっている教育を変えるメソッドを研究してきたね。 どうしたら変えられるかなとかさ。

で、これからやらなきゃいけないのは、メソッド以外の部分で、「そのメソッドをやっていくための兵隊を、ちゃんと地域で支えられるか？」という資金の問題だね。この教育投資という問題を、もっと社会的課題にせんといかん。

田中： そのテーブルに載せて行くっていうこと？

毛受： そう。教育投資を話題にしていく。

田中： そのための仕掛けをして行く……と。

毛受： そうそう。やっぱりその問題点に関心を持ってもらわないと、物事は進まない。最後は、『資金』だから。でも、もちろん『資金』があっても、『メソッド』がないとダメだけどね。

田中： メソッドはあるから、それを動かすための資金があれば有効に回る。

毛受： 資金という問題もね、日本人は自分の財布を家計簿、通帳みたいに考えてる人が多くて。マクロ経済とか、お金というものが社会でどう回っているのかという理解が全然ないから。

田中： 毛受さんて、冷たいのとおんなじくらいの、熱い人がいる気がする。

毛受： それは、私の中の「冷たい人間」は相当の批判者なんですよ。自分の行動ですら批判してくる。熱いようで、超冷たい感じのやつが、「おまえ、本気でやってるのか？」って理詰めで詰めてくるわけ。

..... つづく ^^

こちら、好奇心でかきだした質問表です^^

毛受さんにもインタビュー後おつきあいいただきました。  
まずはどうぞ、みなさんもたのしんでくださいませ★★

### <いろいろ質問表>

- ・月並みですが、小さい頃はどんなこどもでしたか
- ・好きな本を一冊選んでください
- ・いつも必ずする「習慣」はありますか
- ・ねこ派ですか？いぬ派ですか
- ・今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか
- ・それのどの部分が大変だと感じたのでしょうか
- ・それをどうやって乗り越えたんですか
- ・その時、大切にしていたことは何ですか
- ・今頭の中にうかんでいる人はだれですか
- ・その人は、何か言っていますか
- ・3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか
- ・人と会う時、つきあう時、その人のどんなところをみていますか
- ・人として、これは譲れないっしょ??っていうのがあったら、何ですか
- ・RPGでパーティを組むとしたら、どんなキャラクターを選びますか
- ・因みにそのなかで、あなたの役割（キャラ）はなんですか
- ・それはどんな冒険になるのでしょうか
- ・「攻め」と「守り」自分はどちらだと思えますか
- ・全く何の制約もないとしたら、何をしますか
- ・聞くとムカッってくる言葉ってありますか
- ・どんな時にイラッとしますか
- ・落ち込んだ時、どうやってリセットしていますか
- ・何をしている時が一番たのしいと感じますか
- ・今一番欲しいものは何ですか
- ・あなたの萌えポイントをおしえて下さい
- ・今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい
- ・そこで何に気付きましたか
- ・今の自分を突き動かしているものは、何だと思えますか
- ・今死んでも悔いはありませんか
- ・身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか

- ・世界に向けて演説をするとしたら、何を一番伝えたいですか
- ・生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか
- ・人間以外のものに生まれ変われるとしたら、なにがいいですか
- ・朝起きたら、雨が降っていました、どんなことを思いますか
- ・世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、なにを消し去りますか
- ・自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、おしえてください
- ・自分のキャラを一言でいうなら
- ・今一番大切に思っている事（もの）って、なんですか
- ・今日のこの時間で、なにか気付いたことはあったらおしえてください
- ・一年後、どんな自分にいるでしょうか
- ・最後に何か一言お願いします ^^

..... つづきは毛受

さんのおこたえです ^^



田中： じゃあ、あとちょっと。  
好きな本を一冊選んでください。

毛受： 「はてしない物語」

田中： いつも必ずする 「習慣」 はありますか。

毛受： 特にないわ。

田中： 3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか。

毛受： むつかしいねえ。 特にない。 健康であればいいし、子どもたちが遅く生きてってくれよってことかな。 あとは自分の本懐が遂げられること。 常に前に向かって歩いて行けることかな。

田中： 人と会う時、つきあう時、その人のどんなところを見えていますか。

毛受： 特にないね。 まあ、その人が本音でしゃべってるかどうかは見てる。 その人の本質ってものを見ようとする。

田中： うん。そこら辺はすごく嗅ぎ分けてる気がするな。  
人として、これは譲れないっしょ?? っていうのがあるとしたら、何ですか。

毛受： う～ん。 明るく楽しくみんなで行こうかな。

田中： それは毛受さん自身がってこと?

毛受： そう。 正しくてもあんまり暗かったら誰も寄ってこない。

田中： RPGでパーティを組むとしたら、どんなキャラクターを選びますか。

毛受： それなりに手堅いキャラを選ぶかな。 道化師とかは選ばないかな（笑）。

田中： ちなみに、そのなかで、あなたの役割（キャラ）はなんですか。

毛受： 道化師から転職した戦士（笑）。

田中： さっき道化師は選ばないっていったくせにっ！（笑）  
それはどんな冒険になるのでしょうか？

毛受： 適当。「スライム倒すの、めんどくせえ」みたいな（笑）。

田中： では、「攻め」と「守り」自分はどちらだと思いますか。

毛受： 攻めでしょうね。

田中： まったく何の制約もないとしたら、何をしますか。

毛受： たまった本でも読むかな。

田中： 何をしている時が一番たのしいと感じますか。

毛受： 同志たちとしゃべってる時がたのしいかな。

田中： 今一番欲しいものは何ですか。

毛受： 月並みだけど、時間かね。

田中： 今の自分を突き動かしているものは、何だと思いますか。

毛受： ミッションでしょうね。

田中： 今、死んでも悔いはありませんか。

毛受： 迷惑をかけちゃうって点では悔いになるけど。ちょっと違う気がするな。

田中： 身体もお金も制限のない状態で、寿命があと一か月だとしたら、何をしますか。

毛受： ちょっときれいな風景でも見に行くかなあ。大自然の美しい風景を見たい。

田中： 世界に向けて演説をしたら、なにを一番伝えたいですか。

毛受： 子どもや若者たちと向き合って、なにかひとつ活動をして行こう。なにか活動して行くことが希望に繋がる。持続可能な社会づくりの理想の社会を作ろうとするならば、それには子

どもの姿が必要だ。 子どもは私たちの未来や希望の象徴だから。

田中： 生まれ変わったそら、男と女、どちらがいいですか。

毛受： まあ、男も飽きるから、次は女でいいよ（笑）。 女は女で面倒くさそうって、見てて思うけど、それも女になれば面倒くさくなくなりそうな気もするし（笑）。 お化粧したりとか。

田中： 人間以外のものに生まれ変われるとしたら、なにがいいですか。

毛受： ウミガメかな。 たゆたってる感じがいい。 まんぼうでもいい。

..... つづく ^^

田中： まんぼうっ！（笑）。海なんだね。海か。しっくりくる感じ。海って、すごく深いところって冷たかったりするもんね。

毛受： そうだね。やっぱり海は生命の象徴なんですよ。命っていうのは海みたいな総体で。例えば自分の命ってのは、コップで汲み上げた水のようなもの。汲み上げた水を、「自分だ。自分の命だ」って言ってるわけですよ。

だけど、パキッってコップが割れたら海に戻っていくわけね。「あなたも海の一部です。戻っておいで」みたいな……。で、生まれるっていうのは、コップに汲み上げる……。そういう世界観なわけですよ、私の。

田中： きれいですね、とつても。

毛受： 「モリーさんとの火曜日」という物語のなかで、あるエピソードが紹介されとるんだけど、波が岸壁に打ちつけられて、粉々になくなる。ある波が、「このまま岸壁に行くとぶつかってなくなってしまうんじゃないか」って恐れている。

田中： うん。

毛受： だけど、その波に対して海はこう答える。「あなたは打ちつけられてなくなるかもしれないけれど、あなたは、みんなの一部なんです。恐れることはないのよ」っていう話が出てくる。

それを読んだとき、「これこれ、これだよ」って。自分の身体って宣言してるけど、動けって言って動くから自分の身体だと思っているけど、神経切れたりしたら動かなくなるしね。そのとき、「これは自分の身体じゃないかもしれん」って感じるわけさ。自分の思い通りにうごくかどうか自分の身体と感ずる基準。

あと、もし、このインタビューの場に、いきなり爆弾とか落ちて燃え尽きてしまったら、私と永子さんの身体の成分はほとんど差がないわけ。さっきの波と一緒に、この物質は私のものって勝手に宣言してるだけでね。結局は、土に還って行く。

死ぬっていうのは、パキッってコップが割れるということ。割れてだ一とこぼれてゆく。こぼれるけど、なくなるわけじゃない。なにか大きなものに、もう一回戻って行くだけの話。そういう世界観。

田中： うん。

毛受： パソコンの中でもさ、プログラムっていうでしょ。 あれも命と考えて、ワードを立ち上げる、消えちゃった、それは死んだ……みたいなもん。

だけど、また別にワードを立ち上げると別のメモリー空間でそれが立ち上がるでしょ。 同じメモリー空間の中に自分のプログラムがメモリーを占有するわけでしょ。

そのエリアを、自分のプログラムのもので勝手に宣言する……それと一緒になんだ。 似てるでしょ。自分が勝手に有機物の一部をもらって、自分で宣言してるだけ。 命ってね。

田中： **すごく広い世界観。**

毛受： これがリアルだなって。 所詮、命はそんなもん。

田中： **そうだよ。 ボーダーレスな感じが。**

毛受： そう。 だから繋がっている。 輪廻転生もさ、一回メモリーを解放するけど、前のデータが残って……という説明になるかもね。

田中： **全部デリートされずに残ってたものが……？**

毛受： ハードディスク上は、確かに消したはずなのに、残ってたってあるじゃない。 だからそういう仕組みがあってもおかしくない。 そんな感じで、システムとして考えた方が説明が付きやすいから、とりあえず仮説としてるんです。

田中： **世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、なにを消し去りますか。**

毛受： ええっ？ 消滅？ いや、それは、ないね。 消滅させちゃいかん。 存在にはすべて意味があるから。逆に消滅しなきゃいかんっていう価値観を消滅したい（笑）。 まあ、今どっちかっていうと、素の方でしゃべってるから、そうなるけど。

田中： **全然いい（笑）。**

毛受： まあ、生きてる人間としてはさ、「こいつ、早く消滅させたい」 って思うときもあるかもしれんけど（笑）。 それでも、「まあ、いいや」 って思う。 すべてに意味があるって思ってしまうと、消し去れるものはないんですよ。 消し去るものは、消し去ろうと思わなくても勝手に消えていく。

田中： 自然淘汰だね。

毛受： そう。

田中： 自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、教えてください。

毛受： スライム。 もう放っておくと、どんどんそっち行っちゃう。「もういいや、もうなんでもいいや」 って。 でろでろでろでろ～～って。

田中： あはは。 でもさ、学生時代のスライムより、だいぶ大きくなってるとでしょ？

毛受： そうそうそう（笑）。

田中： 大きくなった分だけ、スライムになると被害が大きそう（笑）。

毛受： そうそう（笑）。 でもタフな設定してるから大丈夫。 30年持つ。 簡単には達成できないから。

田中： あー、そっか。 それが形を作ってるわけね。

毛受： そう。

田中： 今、一番大切に思っている事（もの）って、なんですか。

毛受： そういうふうに言うと、やっぱり子どもかな。 写真とか眺めて、そう思えるもんね。 心の安定になるよね。 超かわいい。

田中： 今日のこの時間で、なにか気付いたことはあったら教えてくださいませんか？

毛受： 相変わらず、聞かれると、どっちかっていうと、前向きな自分より、本質的な自分のほうがね、強いなあと思う。 人生を敢えて聞かれると、自分のスタンスってどっちかっていうと、「前向きにがんばろうー」 って感じじゃなくってさ、「ケセラセラ」 って感じの方が強いなと（笑）。

田中： 私はそっち方の毛受さんの方が、いい。

毛受： だから、そっちの方が、人間そのものだからさ。

田中： きっとイベントとかにいらっしゃる、いろんな方とかも、そのフラットな状態というものが楽だと思う。 その状態があるから、やはりいらっしゃるんだろうなって感じがする。

毛受： そうあってほしいね。すべては多様性なんですよ。

田中： 今日はどうもありがとうございましたー！

最後までお読みいただきましてありがとうございました。

今回、あなたの心の内側では、どのような気づきがありましたか。

少しでもみなさまのお役に立てましたら幸いです。

さて、私にはこのインタビュー記事の電子書籍出版のほかに、

『コーチング』 という専門職の顔も持っています。

実は、今お読みになられたインタビューそのものも、このコーチングの考え方に則って行っています。

コーチングとは、人材開発のための手法のひとつで、

おもに対話によって相手の自己実現や目標達成を図る体系的な技術のことです。

相手の話を聴き、感じたことを伝えて承認し、相手に適切な質問をすることで、

クライアントの自発的な行動を促していくことができます。

日本にはいくつかのコーチングスクールがあります。私はCTIというコーチングスクール

でCPCC（Certified Professional Co-Active Coach）という国際資格を取得しています。現在、日本では約550人のコーチがCPCCの資格を取得し、世界中では6,900人のコーチがこの資格を持って活躍しています。（2014年6月現在）

また、『人間の脳の取り扱い説明書』とも称される実践心理学 『NLP（神経言語プログラム）』 も学び、

米国NLP協会認定トレーナーアソシエイトの国際資格も取得しています。

このNLPとコーチングはとても親和性が高く、相互に相乗効果を発揮して、クライアント様の変化変容、

目標実現に大きく寄与していると評価を頂戴しています。

その他、ソースワークショップトレーナーの資格も取得しており、クライアント様に

「本当に生き甲斐のある人生とは何か」 を見定めていただくためのサポートもさせていただいております。

しばらく新規クライアント様の募集は諸事情によりおやすみをさせていただいておりましたが、このたび、また新規クライアント様の募集を再開させていただくことになりました。



もし、少しでもご興味やご関心がおありでしたら、無料体験コーチングを受講なさってみませんか。

今なら1回60分のコーチングセッションを無料でお受けしております。

これまでも、たくさんの経営者様、事業家様、サラリーマンの方、もちろん主婦の方々までコーチングをさせていただきました。柔軟なアプローチと揺るぎない信頼関係。これが私のコーチングのスタイルです。

あなたの目標達成はもちろん、日常生活でのメンタル調整に、思考や判断の整理に、コーチングやNLPは素晴らしい効果を発揮します。私にあなたのサポートをさせていただけるのであれば、これに優る喜びはありません。あなたからのお問い合わせを心からお待ちしています。

無料コーチングセッション、その他のお問い合わせはお気軽にこちらから。

< [ace-support@samba.ocn.ne.jp](mailto:ace-support@samba.ocn.ne.jp) >

最後までお読みいただきましてまことにありがとうございました。

ハタラクヒトペディア電子出版

記者兼編集長 田中永子

ハタラクヒト\*ペディア 6 < 毛受 芳高 氏 >

<http://p.booklog.jp/book/77105>

著者：田中永子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/24riko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/77105>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/77105>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ